

# 市民力！ ボランティア向け「安全技術・技能習得制度」本格普及へ



標準テキストとして「基本篇」と「動力機械編」のマニュアルがある。右は「基本編」の中の1ページ

「受験者」にも包み隠さず明らかにすることで、身につけるべき内容を早期に理解してもらおうという狙いが込められている。

同協議会の副理事長兼事務局長をつとめる加藤鐵夫・日本森林技術協会理事長（元林野庁長官）は、「当面はランク3までの認定者を増やすとともに、地域協議会を各地に設立していきたい」と話している。ボランティアの自主性を引き出しながら、「地域力」の底上げを図る考えだ。

照）について説明し、認定の取得を呼びかけた。

## 6つの地域協議会が「主役」、審査基準もオープンに

同協議会は、一昨年4月に体制を見直して再スタートを切り（第418号参照）、現在は事務局（東京都千代田区・日林協会館内）と、岩手・福島・群馬・大阪・広島・愛媛にある6つの地域協議会が中心となつて活動している。

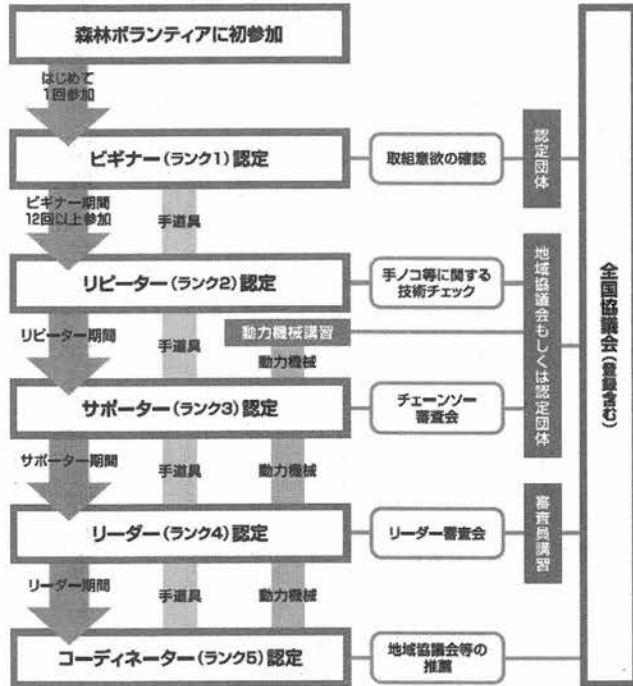
安全技術・技能習得制度は、森林ボランティアが自らの作業経験や参加状況に応じて、学科及び実技試験により、ビギナー（ランク1）からコーディネーター（ランク5）までの認定を取得することができ。基本技術を身につけることを最重視しており、ランク2までは手ノコ作業にとどめ、チェーンソーや刈払機を使用するのはランク3からとしている。

審査・認定のオープン化を図っているのも特徴で、ランク3までの審査は地域協議会が担当し、全国協議会はリーダーの養成と審査基準づくりにより専念している。中央から審査員が出向いて指導するような「上から目線」の仕組みはとっていない。

また、認定取得希望者は、2000円の登録料を払うと、標準テキストである『森づくり安全マニュアル』とともに、試験での評価ポイントが明記されている「審査マニュアル」も手渡される。審査の基準を

# 市民力！ ボランティア向け「安全技術・技能習得制度」本格普及へ

「森づくり安全技術・技能習得制度」の概要



ウムを主催した森づくり安全技術・技能全国推進協議会(理事長 宮林茂幸・東京農業大学地域環境学部長)が、安全の確保と作業技術の向上を目指して運営している独自の制度(図参)

猛暑真つ盛りりの8月3日午後、東京・京橋のイトーキ東京イノベーションセンターSYNQAで公開シンポジウム「森の技術と安全」森林ボランティア新時代の安全を考える」が開催され、約130人が参加した。第1部では元信州大学教授の島崎洋路氏が「語り手」、作家の浜田久美子氏が「聞き手」となって基調対談を行い、島崎氏が「プロもアマも安全な作業のためにやるべきことは同じ」と意識の向上を求めた。第2部では、NPO法人森のライフスタイル研究所所長の竹垣英信氏、林業女子会@岐阜/山の駅ふくべ事務局の寺田菜穂子氏、矢作川水系森林再生ボランティア協議会代表の丹羽健司氏、NPO法人森づくりフォーラム理事の松井一郎氏がパネリストとなって、それぞれの活動状況と安全対策などについて報告。続いて、シンポジ

## 公開シンポ「森の技術と安全」に約130人が参加

森林ボランティアを対象にした「安全技術・技能習得制度」の仕組みが整い、本格的な普及を図る段階に入っている。同制度の運営主体である全国協議会が標準テキストを作成し、8月3日には東京でキックオフイベントとなるシンポジウムを開催した。森林ボランティア活動が広がる一方で、安全対策にはバラツキがみられ、自己流の危険な作業も目につく。事故と隣り合わせとなっている現状を変えることはできるのか。最新状況をお伝えする。